

公共交通（路線定期運行交通）実証実験 実施計画（案）

1 実証実験の目的

- (1) 公共交通空白地域における住民の移動支援と生活の質の向上
- (2) 路線バス等既存の公共交通の利用促進に向けたフィーダー交通としての有効性の検証
- (3) 路線定期運行交通の有効性と課題の検証

2 実験内容

(1) 実施期間（予定）

令和2年 月 日から令和3年 月 日まで ※1年間を予定

(2) 想定利用者

- ア 公共交通優先検討区域の草花折立区域にお住まいの方
- イ 草花折立区域への訪問者、観光客等

【参考】

世帯数及び人口（令和元年5月1日現在）

世帯数：158世帯

人口：341人

年齢階層	人数
0－14歳	21
15－64歳	175
65歳以上	145

(3) 運行内容

草花折立区域から幹線バス停留所への移動手段を確保するため、路線定期運行の小型車を運行する。

運行ルート、停留所及びダイヤの案は、調整中

(4) 運賃

100円～200円／回（未就学児は無料）※ 調整中

既存のコミュニティバスの運賃（大人・子ども一律100円、未就学児無料）とのバランスを考慮する。

(5) 利用条件

実証実験に関するアンケート調査へ協力する。

(6) 運行事業者

※ 調整中

（道路幅員が狭いため、普通自動車サイズ（幅1.695m程度）の車両を想定）

(7) 目標値

1日の延べ乗車人数 平均60人（1便当たり5人）

(8) 効果検証のための調査項目（運行事業者による）

利用年月日、乗車時間・停留所ごとの乗車人数、利用者の属性

3 実験の周知

市ホームページ、自治会の回覧等で周知を図る。あわせて、説明会を開催し、利用方法の周知、積極的な利用とアンケート調査への協力の呼び掛けを行うとともに、公共交通の利用促進に向けた意識啓発に努める。

4 利用実態の把握

(1) 利用状況に関する情報の整理

実証実験終了後、運行事業者から得た情報を基に利用状況を分析し、ルート、ダイヤ、運賃等の妥当性、目的地への足として機能しているかなど、路線定期運行交通の有効性と課題を検証する。

(2) 利用者の意見聴取

利用者へのアンケート調査により、利用目的、満足度、要望等を把握し、移動支援、公共交通利用促進、生活の質の向上等に係る効果と課題を検証する。